教育のぼりべつ

令和３年
3月10日
No.29

発行；登別市教育委員会 TEL0143-88-1100　〒059-0014 登別市富士町７丁目33番地

「学校力向上に関する総合実践事業」～英語で将来の夢を紹介～　幌別小学校

２月５日（金）北海道教育委員会「学校力向上に関する総合実践事業」の指定校である幌別小学校において学校公開を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、校内研修会として授業研究を行いました。テーマは「小中の接続や求められる姿を目指した外国語指導の在り方」。校内の全職員が６年生の外国語授業を見学し、終了後は授業を振り返り、外国語教育についての協議が行われました。



ペアで練習



グループで「将来の夢を紹介」

サンライバで開催された「スキー授業」!!

毎年、サンライバスキー場で開催しているスキー授業がスタートしました。２月８日（月）は、富岸小学校５年生のスキー授業。講師は、登別市スキー連盟の方々と校区のボランテイアの方々が務めました。子どもたちは、班ごとに分かれ講師の話をしっかり聞き、楽しく滑っていました。ゲレンデに元気一杯な子どもたちの声が響くスキー授業は、２月末までに悪天候により中止となった幌別小学校以外の市内小学校の５・６年生（登別小は全校）で実施しました。





日本工学院北海道専門学校の協力で プログラミング学習の授業を実施



幌別小学校の３年生～６年生が、日本工学院北海道専門学校でプログラミング学習の授業を受講しました。１１月１３日（金）は３年生、２０日（金）は４年生、１２月８日（火）は５年生、１５日（火）は６年生の授業が実施されました。３年生は、スフィロというボール型のロボットを使用して、視覚的にプログラミングをを学びました。スフィロに、動かす時間や方向、早さをプログラミングし、的に合わせてそれを動かします。的を外したらプログラミングを何度も組み直します。その結果、後半には的に入った班もいくつかあり、盛り上がりました。６年生は、コースが難しく、プログラミングを組むことも難しい中、何回もチャレンジしていました。どの学年の子どもたちも、熱心に講師の話を聞いて楽しく積極的に取り組んでいた姿は大変立派でした。



プログラムを二人で調節



的に向かってチャレンジ

『たたら製鉄』の体験会

１１月５日（木）、青葉小学校の５年生（３７名）が、日本古来の「たたら製鉄」を伝承するグループ「室蘭・登別たたらの会」の皆さんに実演と指導をいただき、たたら製鉄を体験しました。前日、子どもたちがレンガを積んで炉を作り、当日は火入れ後、木炭と砂鉄（イタンキ浜とアヨロ海岸で採取）の重さを量り、炉に入れる作業を交替で２６回も行いました。途中、１４００度に達した炉の中を連結させた管から覗いて観察し、火入れから７時間後に炉を解体し「鋼（けら）」と呼ばれる鉄の塊（約5.2㎏）を取り出すことに成功しました。子どもたちにとっては、大変貴重な「ものづくり」の体験となり、生涯忘れられない体験となりました。



木炭と砂鉄を入れる



鋼の重さは何キロか

つながり広がる　「地域学校協働本部事業」

登別市地域学校協働本部実行委員会実行委員長 畑山 功一氏に聴く

登別市では、地域と学校が連携しながら地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働本部事業」を推進しています。事業を担うのは、学校と地域の皆さんです。これまで、「学校週5日制運営委員会」（平成4年度～）を皮切りに、「登別市子ども地域交流プラザ運営委員会」（平成12年度～）、「学校支援地域本部実行委員会」（平成20年度～）、「地域学校協働本部実行委員会」（平成31年度～現在）と組織を改め、名称変更しながら事業の充実に取り組んできました。事業は、学習支援活動や見守り活動のほか、参画する幅広い地域の皆さんの知識と経験を生かしたその地域ならではの手作りのユニークな企画がたくさん。子どもたちは、きらきらした眼差しで体験を楽しんでおり、会場からは楽しげな歓声が聞こえてきます。　組織は、次の通りです。

登別市地域学校協働本部実行委員会

幌別中学校区	西陵中学校区	緑陽中学校区	鷲別中学校区	登別中学校区
地域教育協議会	地域教育協議会	地域教育協議会	地域教育協議会	地域教育協議会
↓	↓	↓	↓	↓
コーディネーター	コーディネーター	コーディネーター	コーディネーター	コーディネーター

「地域学校協働本部」では、活動計画やコーディネーター等の配置活動の評価などを行っています。各校区の委員の構成は、学識経験者、社会教育委員の会、各中学校区運営委員会の代表等で構成されています。様々な意見を交わしながら試行錯誤を重ね、事業を進めています。



地域学校協働活動事業として　①学習支援活動　②地域活動・ボランティア活動
学校支援活動事業として　①登下校の見守り　②授業への協力
放課後子ども学習事業

【 現状と思うこと 】

地域の活動をまとめているのは、各中学校区のコーディネーターの皆さんです。コーディネーターさんは、広い人脈と持ち前の明るい人柄で地域と学校、行政などをつないでいます。この事業では、さまざまな活動を通して、子どもたちは大人から多くのことを学び、大人は、子どもから元気なパワーをもらったと喜んでくれています。子どもから高齢者まで数百人が参加する事業では、一つの目的に向かって作業や活動をする姿こそ、世代を超えた和やかな交流の風景です。地域の人々の知識と経験こそが、子どもたちの教科書なのです。子どもたちが将来大人になり親になったとき、自分を取り巻く子どもたちに、今日のこの体験活動を語り伝えることができるよう願っています。



【 これからの地域学校協働活動 】

これまでの取組を評価・検証し、改善点はないか、どういった活動や方法が効果的なのかを再確認する時期にきています。これからも地域の人々のお知恵をいただき、より充実した事業を末永く推進していくために、地域と学校、家庭の連携を強化していきたいと思います。地域と学校の交流について、より良いアイデアがあれば、ぜひ、教育委員会までご連絡下さい。皆さんのご理解とご支援、ご協力をよろしくお願いします。

認知症サポーター養成講座　実施

核家族化で高齢者と接することが少なく、特に認知症の人と接する経験が少ない子どもたち（小学生・中学生）を対象に、認知症への正しい理解を深めてもらおうと、登別市では、平成２６年度より「認知症サポーター養成講座」を開催しています。今年度は、９月２３日（水）から２月１０日（水）までの間に、小学校３校・中学校３校で開催されました。１１月２０日（金）に開かれた鷲別中学校の講座では、登別市の地域包括支援センターけいあいの職員の方々と登別市認知症初期集中支援チームの皆さんを講師に迎え、２年生を対象に、認知症の方への接し方や家族へのサポート方法を学びました。講座は、寸劇をまじえた分かりやすい内容で、生徒達は真剣な眼差しで取り組んでいました。また、参加生徒には、受講したサポーターの証として「オレンジリング」が贈られました。





縄文人の特徴は？暮らしは？

登別市教育委員会主催による「縄文出前講座」は、平成17年度から毎年開催され、今年度は、市内小学校5校で実施されました。

11月6日（金）に開かれた鷲別小学校の講座では参加した6年生は、講師の登別市教育委員会菅野学芸員から縄文人の特徴や暮らしの様子、食生活などを学びました。食べ物の中でも特にイルカやオットセイなどを多く食べていたことを聞いて、子どもたちは、とても驚いた様子。貝塚についても説明を受け、後半では、実際に縄文人の道具や土器などの実物を見たり、触れたりしていました。



